

「引く」日葡辞書から、「読む」日葡辞書へ——

日葡辞書は、なぜ全体の4分の1が「補遺」なのか。なぜ序文を2度重ね刷りしたのか。全編ローマ字の日葡辞書で、イッシン(一親、一身、一心)を書き分けた方法は、日本語学のみならず、版本書誌学・文献学にも貴重な示唆・新見に富む清新な論考と、訪書の静かな亢奮を伝えるコラムを収録。

キリシタン版

にっ ぽ じ し ょ

日葡辞書の解明

中野 遙 著

(日本学術振興会特別研究員・上智大学〔博士〕)

2021年3月25日刊行予定 定価(本体10,000円+税)

A5判・上製・カバー装・258頁 ISBN978-4-8406-2242-4 C3016 ¥10000E



「引く」日葡辞書から、「読む」日葡辞書へ——

上智大学教授 豊島正之

キリシタン版日葡辞書(1603～1604)は、殊更喋々するまでも無い、日本語史の資料としても十指に入る著名文献である。「邦訳日葡辞書」を「引いた」(或いは「引かされた」)経験のある向きは少なくないだろう。

日葡辞書は、全編ラテン文字(ローマ字)である。日本語対訳辞書であるのに、漢字は全く用いない。日葡辞書が、漢字無しで「夏日」・「暇日」・「佳実」を書き分けるために用いた「訓釈」は、同じくイエズス会刊行の「落葉集」(1598)の「定訓」との連繫に拠る。日葡辞書の見出し語に漢字を宛て、それを漢字ごとに分解して「落葉集」とクロスチェックした中野遙の論が、初めてこれを具体的に示した。

キリシタン版ラポ日対訳辞書(1595)の本文第1ページの見出し語「Ab」には、「Ab, praepositio, vide supra.」(前置詞、前項[A、これも前置詞]を見よ)、とある。これは特に異とするに当たらないが、この「praepositio」をラポ日対訳辞書で検しても見出し語に見えないのは、異例である。動詞 praepono(前置する)の下にも見えない。Calepinusの1580年リヨン版でも、著者自筆かと言われる Calepinus 稿本も同じで、どうやら Calepinus 先生が、praepositioをお忘れの様である。praepositio(前置詞)という品詞名は、ラポ日対訳辞書にも Calepinus にも何度も現れるのに、それが当の辞書では引けない。

日葡辞書では、こういう事は起きない。

日葡辞書の日本語用例中の語は、必ず日葡辞書の見出し語に取られるのが原則である。

日葡辞書は、本篇330丁を刷り上げたあと、実に70丁(全体の4分の1)もの補遺を付けるが、それは本篇用例中に現れるのに、本編見出し語からは落ちていた語を取めるためである。これは、ソフトウェアでは「2パス」と呼ばれる、確実性を重視する手法だが、400年以上前に辞書を2パスで作った事例に、中野遙以前に気付いた人はいなかった。「補遺」序文に、「初回[本篇]では日本語語彙の豊富さと多様さを挙げ尽くす(esgotar)事が出来なかった」ので補遺を作ったとあり、esgotarせずには止まず、という強い意志が読み取れるにも拘らずである。

これは、日葡辞書が「引く」形で利用されて来たためである。「引く」は、お目当ての語だけさえ取り出せば済む。「邦訳日葡辞書」は、補遺篇の語を本篇に組み込んで整序してあるので、「引く」ときに「補遺」マークが意識される事は少ない。中野遙は、日葡辞書を「読む」事で、その2パス振りを初めて克明に描き出した。

中野遙の「読む」集中力は、ÉvoraやParis、Rio de Janeiroの図書館の貴重書室でも遺憾無く発揮され、只管打坐、日葡辞書に釘付けになって3時間、ノートを取る以外身じろぎもしない。それ故、中野と一緒に訪書すると殆ど日葡辞書が見られないという破目になる(最後の15分位だけ見せて貰える)ので、Bodleyには同道しない事にした。本書も、序文の2度刷りや、大文字活字の新鑄とイタリック流用など、ひたすら原本を睨み続けた者にしか語り得ない新見が多く盛られて、キリシタン語学だけでなく、文献学・版本書誌学の方面にも、尽きせぬ(esgotarし得ぬ)興味をもたらすであろう。

森田武(1993)「日葡辞書提要」以来30年近くを経て、日葡辞書を「読む」本格的研究が、新村出記念財団の御援助、及び八木書店の美しい造本によってここに世に出るのは、大きな喜びである。

【目次】

序章 日葡辞書とは

はじめに

第1節 キリシタン版の辞書

第2節 日葡辞書の概要

- 1 現存する日葡辞書
- 2 これまでの日葡辞書研究
- 3 キリシタン版の活字と日葡辞書の活字
- 4 日葡辞書の概観

コラム① 日葡辞書を持つ図書館

第1章 日葡辞書の語釈

はじめに

第1節 日葡辞書の語釈の特徴

第2節 日葡辞書の語釈の構造

- 1 語釈構造の分類
- 2 本篇と補遺篇の語釈構造の違い

第3節 訓 釈

—ローマ字で漢字表記を表すために—

- 1 日葡辞書訓釈と『落葉集』定訓
- 2 定訓以外の語による訓釈
- 3 訓釈と置換語釈
- 4 日葡辞書訓釈の機能

第4節 「id est」と「vel」—説明と言い換え—

- 1 「id est」と「vel」
- 2 「id est」による特殊語注記の換言
- 3 「id est」とその他の注記
- 4 『羅葡日対訳辞書』中の対称性・非対称性
- 5 「id est」の非対称性と「vel」の対称性

第5節 特殊語注記

第6節 ラテン語注記

- 1 日葡辞書のラテン語注記
- 2 「¶」と「¶t」
- 3 「Item」と「Idem」の使い分け
- 4 「Vide」と「sic」

第7節 日葡辞書の語釈の構造まとめ

コラム② 日葡辞書と節用集

第2章 日葡辞書の見出し語

はじめに

第1節 本篇と補遺篇の見出し語

第2節 本篇の日本語と補遺篇の見出し 昇格語

- 1 見出し昇格語と新規収録語
- 2 本篇「vel」の見出し昇格語
- 3 日葡辞書の「閉じた」性格

第3節 補遺篇の重出語

- 1 「*」重出語の機能
- 2 日葡辞書補遺篇の重出語
—「*」を持たない重出語—

第4節 日葡辞書の見出し語まとめ

コラム③ ポルトガル・リスボンの キリシタンの足跡

第3章 日葡辞書の編纂方針

はじめに

日葡辞書「序文」の二重印刷

第1節 日葡辞書「序文」の印刷上の特徴

匡郭と活字の重なり／クワタの有無
活字の水平の差異／活字の詰め込み

第2節 日葡辞書「序文」の二重印刷

「序文」後半部と日葡辞書の編纂方針
—編纂方針上の不備・不統一への弁明記述—
訓釈の不徹底／見出し語の欠落

第3節 「序文」二重印刷の理由

終章 キリシタン版日葡辞書 の解明

参考文献

初出一覧

索引

【予約受付中】 刊行次第、お届けいたします。ご注文は下記にご記入の上、最寄りの書店か、または小社までお申し込み下さい。

申 込 書	中野 遙著／八木書店刊 キリシタン版 <small>にっぽくじしよ</small> 日葡辞書の解明 <small>かいめい</small> [] 冊 ISBN978-4-8406-2242-4 C3016 ¥10000E 定価 (本体 10,000 円＋税)	2021年3月25日刊行予定	取扱店 (番線印)
	お名前 (ふりがな)	TEL	
	ご住所 〒	FAX	
		E-MAIL	